

# アザミウマ類による中晩柑類の被害

春季の気温が高く、乾燥するとアザミウマ類の発生が多くなることがある。従来問題とならなかった春葉での被害や、イヌマキ等の無い場所でもチャノキイロアザミウマが多発し、被害が発生している事例が見受けられた。

## ○ミカンキイロアザミウマによる春葉の被害(せとか)



写真1 葉裏に生じた白斑

施設栽培で新葉に白斑が生じる被害が見られたことがあるが、露地栽培でも同様の被害が発生した。紅まどんなの様に強い黄化はみられない。

下草に多発したミカンキイロが、下草の枯死後、新葉に移動し加害したと思われる。

## ○アザミウマ類の加害による新葉の被害(せとか)



写真2 被害を受けた新梢  
新葉が展葉せず、細く奇形したように見える。



写真3 新葉被害  
葉表を内側に折り畳む様になっている。

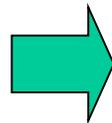


写真4 新葉の加害痕  
折れた部分に加害痕が残る。

## ○チャノキイロアザミウマによる果実の被害



写真5 7月上旬(左)と収穫果(右)の被害状況(はるか)

果頂部の窪みに沿って加害することが多い。



写真6 果実への寄生(左 黄色円内)と7月上旬(中)と収穫果(右)の被害状況(せとか)

初期の被害跡が薄く、摘果時に判別が付きにくいものも多い。

果実でも新梢上でも幼虫がも見られることから、定着し長期にわたって加害を行っていると考えられる。

チャノキイロの寄生が見られ、**本種の加害**が原因と思われる。